

# 域を作り、 域が人を育てる

## 地域への愛情と恩返し

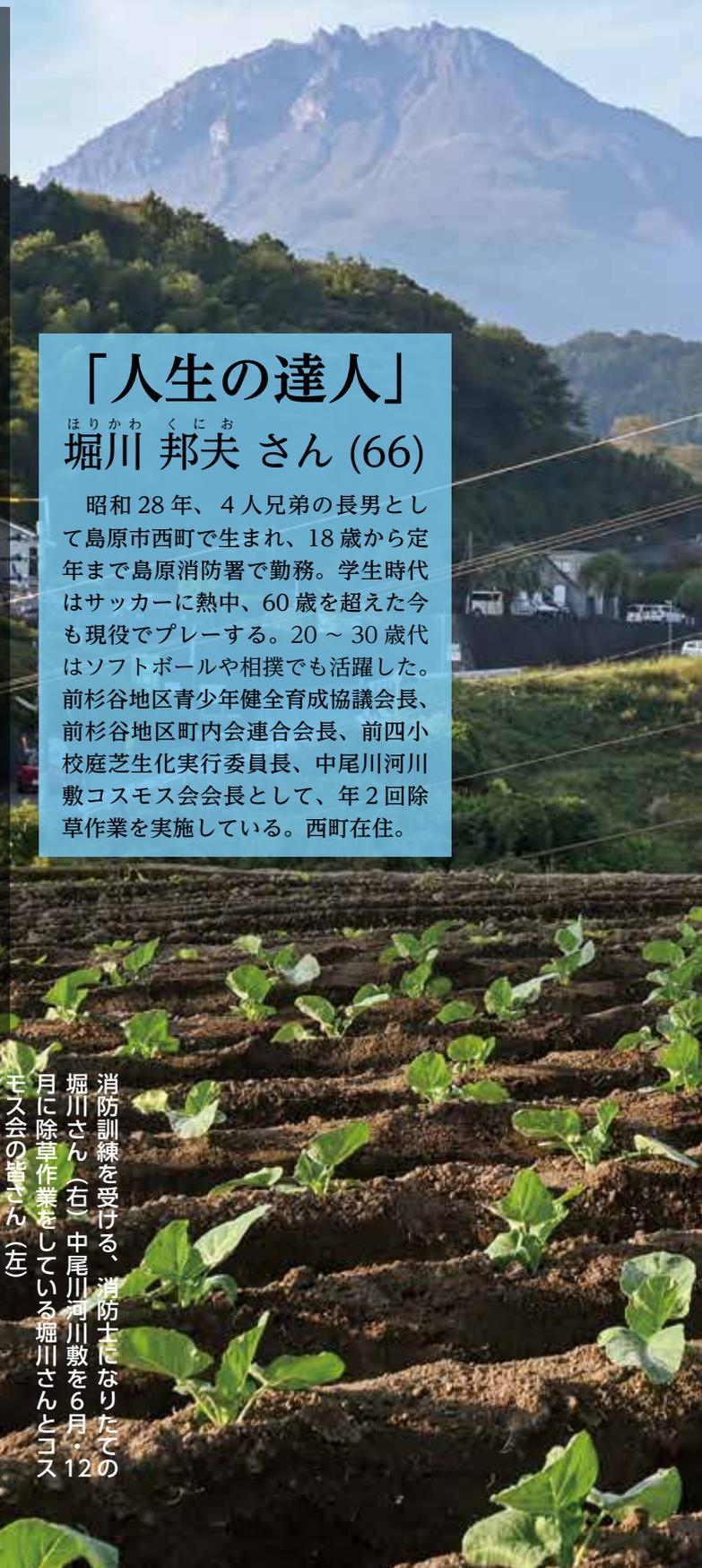
親子8代に渡り、杉谷地区で農業を続けている堀川さん。18歳から定年まで消防士を務めました。38歳の頃、雲仙・普賢岳噴火災害が発生。知識と経験を生かし最前線で活動、心身共に疲れた状態でも災害の記録を書き残しました。その記録は災害終了後に刊行された「平成島原大変」に生かされ、今でも当時を知る貴重な財産になっています。地域への恩返しや故郷への愛情、愛着心や誇りを持てる地域にするため、平成8年から年2回中尾川河川敷の清掃活動を続けています。

「清掃という目に見える行動を通して、環境美化や自然保護について考え、行動するきっかけになれば嬉しいです」と話してくれました。地域のつながりや親子の触れ合いを作るために始めた活動の一つに、第四小学校の芝生化があります。仕事の合間をみては学校を見回り、1回3時間以上かかる水まきを続けるなど、子どもたちに最高の芝生環境を整えることだけを考え、6年間試行錯誤し続けました。この経験やノウハウは今後も貴重な財産として島原に残り続けるでしょう。

# 輝く島原

# 人が地地

笑顔でねんりんピックに向かう堀川さん(右)・島原城を背後に島原商業高校サッカー部時代(左上)・島原半島の相撲大会で、個人優勝3連覇(左下)



## 「人生の達人」

ほりかわくにお  
堀川 邦夫 さん (66)

昭和28年、4人兄弟の長男として島原市西町で生まれ、18歳から定年まで島原消防署で勤務。学生時代はサッカーに熱中、60歳を超えた今も現役でプレーする。20～30歳代はソフトボールや相撲でも活躍した。前杉谷地区青少年健全育成協議会長、前杉谷地区町内会連合会長、前四小校庭芝生化実行委員長、中尾川河川敷コスモス会会長として、年2回除草作業を実施している。西町在住。

## スポーツで伝える生き方

中学からサッカーを始め、60歳を超えた今でもクラブチームでゴールキーパーを続けています。11月9日、12日に開催された「ねんりんピック紀の国わかやま2019」にも長崎県代表として参加しました。

「ゴールキーパーはグラウンドの中で、唯一味方選手の背中を見ながら試合を見ることが出来ます。状況を把握、分析し的確な指示を出す重要なポジション。誰よりもサッカーを勉強し、一番詳しくないといけないと思っています」と話してくれました。堀川さんのサッカーにかけると熱い思いは、サッカー女子1級審判員

として活躍している、娘の「うらら」さんにもしっかり引き継がれています。サッカー以外に活躍したスポーツの一つに相撲があります。昭和52年、57年当時、島原半島の相撲大会では、恵まれた体格と勝負魂で団体優勝5連覇、個人優勝3連覇という成績を残しました。

「最近では安全や効率を求めるあまり、経験が不足したり、物事を突き詰めることが少なくなつたように感じます。地方で育つても、全国で通用することをスポーツを通して証明できるように頑張っています。今の環境に自信を持って、何事にも頑張つて欲しいです。」と若者に向けて熱いエールを送ってくれました。

熱いエールを送ってくれました。

消防訓練を受ける、消防士になりたての堀川さん(右) 中尾川河川敷を6月・12月に除草作業をしている堀川さんとコスモス会の皆さん(左)

